

金沢経済大学同窓会誌

きずな

第3号

1992. 9.

発行所/金沢経済大学同窓会事務局

〒920 石川県金沢市御所町丑10

事務局 TEL (0762) 51-9876 直通

大 学 TEL (0762) 52-2236

発行責任者: 中田邦雄 編集発行人: 菅村洋一

同窓会会員現在 7,908名



ごあいさつ

同窓会会長

中田邦雄

金沢経済大学同窓会が発足してから二十年の節目を迎えた一昨年の十一月十一日、多数の出席をえて、盛大に記念総会・懇親会(式典)を開催出来ました。これは、会員皆様方の同窓会に対する篤い思いを感じ、感激しました。心からお礼申し上げます。

会員は今や、八千人になろうとしています。社会の中堅として活躍する報を見聞するにつけ、力強く感じます。私も微力ながら同窓会の将来に寄与出来ればと念願しております。

本年は、金沢経済大学創立(開学)25周年、稲置学園創立60周年となりました。本会も大学・学園と共に発展したいものと思えます。25年・60年の歴史の重みを感じますとともに、これからの歩みを大切にしたいものです。その意味で「きずな」が会員皆様の情報交換と友情交歓の一助になればと願っております。発刊してからようやく三号目となりました。いたらない面も多々あるかと思えますが、同窓会、大学の近況等出来るかぎり多く掲載して、母校をしのぶよすがにしたいと思っております。また、社会で活躍している先輩を多数紹介することによ



てきずなを深めたいと思えます。

幸いにも、石川県庁支部に続いて地域や職域で支部設立の動きがあることを頼もしく思っています。これらの支部活動に対しましてささやかながらも応援したいものと考えております。そして、各支部の総会等に出席する事を楽しみにしております。会員皆様のご協力、ご支援をお願いする次第です。

会員皆様のご健勝とご発展と今秋十月十一日の総会・懇親会が盛会になることを祈念してごあいさつとします。





学園創立から現在まで

歴史の流れに観る

総長・理事長 稲置繁男

私が金沢に來た昭和七年。

当時の日本は関東大震災の余波と、金融恐慌や冷害による不況のため、三十万人の失業者をかかえ娘たちの身売りという悲惨な社会状態であった。中学校へ行ける一部の子弟を除いて、一般庶民の次男・三男坊は、年奉公か養子以外に生活の手段はなかったのである。

学歴や門閥はなくとも、社会で生きる道はないものか。自分の技能を身につける手段はないものか。

二十歳頃から私は、真剣に考え出したのである。そして、最終的に到達したのが、

「珠算・簿記」であった。

明正簿記学校の「明正」は、私の信条とする「明瞭正確」を表したものだ。

教師二名と生徒四名からスタートした一私塾だったが、これこそ私の初心であり、青春時代の立志であった。

日支事変・第二次世界大戦と、男子は戦場か軍需工場へ、女子も徴用される時代に入り、青年学校同等の認定を得たわが校も金沢商業女学校と改称し、やがて終戦を迎えたのである。

アメリカ進駐軍による占領下、すべてはマッカーサー司

令部の指示で、教育改革が行われ、平和主義・人権尊重を基底とする新憲法が公布された。

自由平等・男女同権・民主主義と、ひびきのよい言葉



が、半世紀にわたって叫ばれて来たが、すべては与えられたものであり汗と涙で身につけたものではない。

だから、自由が我がままとなり、義務を忘れた権利だけが、わがもの顔に横行する時代になってしまったものと思う。

ただ、私の幾つかの思い出の中で、昭和三十八年のベビーブームによる「三八対策」を忘れることはできない。

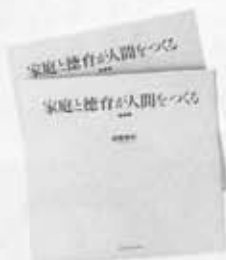
高校生受け入れのため、県下数校の私立高校が、教室を増築し先生を補充して、一人の脱落者も出さなかったこと



稲置学園理事長 稲置繁男 著

「家庭と徳育が人間をつくる」

出版記念パーティが
平成4年7月9日金沢スカイホテル
にて開催される



- 書籍ご希望の方は
大学事務局まで
お申し込みください。

定価 3,500 円



金沢経済大学

沿革

- 昭和41年 3月 学舎第1号館完成
- 昭和42年 1月 金沢経済大学設置認可
- 昭和42年 4月 第1回入学式
- 昭和43年 7月 学舎第2号館、管理棟完成
- 昭和44年 3月 金沢経済大学体育館完成
- 昭和46年 1月 経済学部2部設置認可
- 昭和46年 1月 武道館、情報処理センター完成
- 昭和46年 3月 第1回卒業式
- 昭和48年 4月 1部に商学科増設
- 昭和51年 3月 学舎第3号館完成(稲置記念館に改築)
- 昭和59年 3月 学舎第4号館完成
- 昭和60年12月 1部商学科定員増認可
- 昭和63年 2月 学舎第5号館完成
- 平成元年 10月 稲置記念館、トレーニングセンター完成

は、教育史に永く銘記されるべき快挙だったと信じている。

教育の基底は「知・徳・体」といわれるが、これはすべての社会人にもあてはまる人間生活の指標でもあろう。

その意味ではこの二十年

間、いかに徳育が地に落ち、乱世の様相を呈しているか。

政財界の腐敗と教育や宗教界の墮落を見ると、何が平和国家であり、何が世界の先進国かと反論したくなる次第。

さて、本学同窓会の会報「きずな」も、役員諸君の努力により、七年目にしてその創刊

号を完成した。明日のための情報交換の素材とし、同じ学園に学んだ人間交流の場として、重大な役割をはたしていることをあらためて考えてみよう。

経済人としては優等民族であるが、人間としては劣等民族と云われぬよう、お互いに

反省する時が来たように思える。

最後に『真理の中に在る時のみ、人間は自由である』。この言葉を贈って発刊への祝辞としたい。





金沢経済大学
学 長

小西 滋 人

同窓会の発展を祈って

♪さあ集いて歌おう

オハイオを讃え

母校を慶賀する歌を

この時我等の心は弾み

死神すら引き裂けぬ

友愛に震える

灼熱の夏も厳寒の冬も

季節は移り月日は巡る

時は流れ諸物が流転し

初めてきつと

分かるだろう

君達の友情が

如何に堅固なものかを

おおオハイオ! ♪

(拙訳)

筆者がしばらく籍を置いたオ

ハイオ州立大の、年一度の東京

における校友会で、必ず斉唱さ

れる学歌の「全訳」である。こ

こで強調したいのは、母校に時

間や距離はなく、しかも世界中

何処の大学の賛歌も、死神すら

引き裂き得ない友情を讃える心

は一つであることである。

学園六十周年、大学二十五周

年を迎える本学同窓会が、皆様

の青春の故郷金沢経大のいよいよ

よの発展を基盤に、一回生から

二十二回生にわたる七千九百名

の会員の心をついに、母校

との「きずな」を一層深められ

ますことを、心から祈念した

い。



金沢経済大学
教 授・教務部長

服 部 治

学生諸君の活性化を潮流に

さわやかな五月の風が学園を

わたるとき、十五・十六日の兩

日に「新歓祭」が開かれる。四

月に入学した一年次諸君の表情

はどうだろうか。それぞれに期

待と思いを大学生活を通じて、

わずかであっても、着実にステ

ップしてくれていることを願

いつ、研究室射し込む陽を受け

とめる。

一年次がもつあの爽快感を四

年間持続することは、きわめて

むずかしいといわねばならな

い。けれども、学生諸君が四年

間の学校生活の中で、それぞれ

の機会や場面で、自分なりの充

足感を確保できるとするならば

大きな前進である。

「最近の学生は、以前に比べ

ておとなしくなった」という声

は少なくない。おとなしいとい

う表現には、消極的なタイプと

いう意味が込められている。私

は必ずしもこの見方に与みしな

い。自発的で、積極的なタイプ

になる素地をもっている、把

握したいのである。先輩諸氏の

築かれた土台にたつて、学生諸

君の一人ひとりの活性化が、や

がて大学における大きな潮流と

なる日をめざして、大学教務部

門の活動に努めたいと考えてい

る。

(五月八日)



『雑・感』

金沢経済大学

教授 宮口明義



同窓生を送りだして

はや二十五年のつれづれ

昭和四十二年四月の大学創立以来、数々の学生達と出会い、語らい、そして卒業を祝って来た。当初はAとDの4クラス制度（現、10クラス）。休憩時間中の廊下での往来で、この日欠席者が判断でき、顔が見えないとすれちがう友人に聞けばすぐさま居所が判明できるほどの教職員と学生間であったように思える。

なかには、朝登校するや否や講義室を忘れ、すぐさま部室から練習グラウンドへの往復直行便に精を出したM君。一般学生への世話として頑張った学友会所属のS君。昼休み中、ひそかに毛布で防音までの気くばりしながら麻雀特訓のYクラブ部室。数えればきりが無い。また二部の授業では、意図するネライを長老学生が上手にクラス・

チームをとりまとめ、失敗があっても老若男女一体となって楽しく一緒に汗を流し頑張ることができた。その彼らも今や各企業での中堅どころ。先般、我が第三子が、彼らの長子と友達であり、育友会を共にお世話することもできた。

また、全国各地に試合や学会に出かけた折り、近くのOB達への連絡も楽しみである。懇親

でのその仕草が昔のままであることにあらためて感激する。しかし、薄くなった頭・体型に威圧さえも感じるが、これも酒の肴である。

益々のご健勝とご多幸を祈りますと共に、いつかどこかでヒョッコリと会える日を楽しみに、お互い達者で頑張りましょう。

金沢経済大学の誇り

第六回全日本学生スキー

技術選手権大会にて

前田智栄さん(在校生)

総合優勝で日本一に輝く!!

輝かしい成績をあげた前田さんが本校から最優秀生として表彰されました。ますますの活躍が期待されます。



企業への4年間の就職状況

業種	年度		昭和63年度		平成元年度		平成2年度		平成3年度	
	企業数	人数	企業数	人数	企業数	人数	企業数	人数	企業数	人数
建設業	14	22	13	17	23	28	18	22		
製造業	37	44	39	54	64	80	60	71		
電気・ガス	-	-	1	1	-	-	1	1		
運輸・通信業	9	10	9	11	10	17	15	17		
卸売業	36	55	44	74	58	78	47	58		
小売業	57	68	41	57	61	85	72	84		
金融・保険業	17	29	32	49	30	44	28	37		
不動産業	1	1	1	1	3	5	3	4		
サービス業	17	17	32	32	37	43	33	37		
(コンピュータ関係)	-	-	(13)	(13)	(18)	(24)	(16)	(18)		
(教員)	-	-	(3)	(3)	(3)	(3)	(2)	(2)		
農協・非営利団体	7	9	11	12	11	11	5	5		
公務員	12	15	15	20	13	17	23	28		
小計	207	270	238	328	310	408	305	364		
自営業		20		16		17		13		
進学		4		3		3		4		
合計		294		347		428		381		

大学近況

同窓会通信

集え、^{つど}朋友よ!!

金沢経済大学

平成四年度同窓会のご案内

●日時／平成4年10月11日

午後4時より(3時30分受付開始)

●会場／ホリデイ・イン金沢(金沢駅東口前)

■お申し込み方法

同封の参加申し込み用振込用紙にて受付けます。
7,000円を来る9月30日までに振込みください。
お振込みと同時に参加申込みいたします。



同窓会員によるゴルフ同好会発足
第1回ゴルフコンペ10月開催予定
ゴルフ同好会会員募集中

- ゴルフ同好会会員の加入申し込みは、同窓会事務局(52-9876)迄ご連絡下さい。

同窓会のゴルフ同好会が発足しました。

本年四月五日(日)に白山カントリークラブに於て十名の参加者でプレゴルフ大会が行われました。

【参加者】

小川義昭・鳥居茂・安野治
竹内和夫・中出利行・助政樹
荒井進・米田正博・芝田義則
田中洋之(以上十名)

曇り時々小雨の中、和気藹々のうちに熱戦が繰り広げられました。

成績は次の通りです。
優勝 小川 義昭
二位 米田 正博
三位 芝田 義則



大学近況

事務局長 退任

ごあいさつ

熊田 巖

平成三年春以来、眼の状況が思わしくなく不本意ながら九月を以て辞任させて頂きました。

就任後僅か一年四か月の短期間の勤務のため何のお役ににも立てなかったことを残念に思い、かえってご迷惑を掛けましたことを深くお詫び申し上げます。

ただその間、会員皆様より種々貴重な資料や情報等の提供を賜り、あるいは、仕事を通じてご懇意に相成る等、私の方こそ大きな収穫を得させて頂きました。



新事務局員
藤沢淳子さん常駐
どうぞよろしくお願ひいたします。

又幸運にも同窓会設立二十年記に当たり盛大な記念パーティーに参加させて頂きましたことは忘れ得ぬ思い出となりました。

ここに、改めて在任中のご厚情に感謝申し上げますとともに同窓会のますますの充実ご発展と併せて会員各位のますますのご隆盛とご健康を心からお祈り申し上げますことばとさせて頂きます。

山本外吉氏 死去

元金沢経済大学学長

(昭和四十六年から五十八年迄)



通夜及び葬儀には学園関係者が多数参列し、見送りしました。哀悼の意をささげます。

同窓会をささえる

常任理事会

二か月に一度の割合いで開かれ、同窓会の活動を推進していきます。会長・副会長・総務・企画・広報の常任理事は、各々の仕事の間をぬって熱い討論をかわし、今後の同窓会の在るべき姿を求めて努力をしています。



編集後記

時の過ぎる早さに思わず天を仰ぎたくなる。世界情勢の変化は、政治的にも経済的な面でも過激な程に動き、また国内ですらその動きに巻き込まれるように激動を見せている。それもこれも、暑い夏のバルセロナオリンピックが、各国の威信と名誉をかけて戦われて、華々しく終わった。

「きずな」第三号を漸くお届けできてホッとしている。まだまだ内容に不満があって、同窓会誌を「紙」ではなく「誌」とした意図を実現させるべく、今後をにらみたいと考えている。それは、例えばその年の経済活動についてや、本年の話題となっているPKO法案などについての見解など、各界に進んでいる同窓生の立場でこの「きずな」を通して意見の交換が出来れば一層の充実を見るものと考えている。

ご一読、ご一報をいただければ誠に幸いです。